

議 事 録

目 的	第2回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年7月5日(火) 18:55~20:55
-----	--------------------------

場 所	本庁3階 第二・三委員会室
-----	---------------

部 会 名	第4部会
-------	------

内 容	
-----	--

○出席者

委員：北裏佳代委員、堀内達也委員、若林正也委員、石川郷子委員、南進委員

市：教育総務課 佐野課長、教育総務課 山本調整監、福祉保健課 三鬼課長、生涯学習課 世古係長、市長公室 岩本補佐、森下係長

○主な協議等内容

◆411 子育て支援の推進について

・委員

熊野市や紀北町は子ども医療費の年齢を引き上げている。子育ての中で補助があるとそれだけ家計も助かるということが目に見える施策である。医療費という一番大事なことだが、それがあまりにも出てこないのもう少し上手にインパクトを与える工夫をしたらよいのではないかと思う。熊野市や紀北町と比較するわけではないが、高校まで助成してくれるとなると、そういうところが子育てする中で今後どうかと思う。

・三鬼課長

今後、29市町で底上げしていくと、県が1/2補助している事業なので、県制度自体も上がっていかざるを得ないという時期も来ると思う。県制度としては今は小学校6年生までしか認めていないので、県全体が底上げすれば、市も自ずと底上げできるが、財源との絡みもあり、県もすぐには踏み切れていない。現物給付化といって、愛知県、和歌山県、奈良県などは、後で戻ってくるのではなく、窓口の負担がない。そうすると行きやすくなるので回数が増えて医療費が増えるという矛盾もあるが、子育て支援のためにはそこまでするほうが良いという考えの県もある。その辺は状況を見ながら改善すべき点ではあると思う。それには財源が伴うので、どこにどういうバランスでお金を分けるか選択をしないと、良いというだけではなかなかお金はつけられない。

・委員

紀北町は中学生まで入院も通院も費用が出る。津市は子どもが産まれると病院代がただになるというのが、尾鷲市の良い部分は出てこない。どうしても比べて、隣の町のほうが良いということが見えてくるので、尾鷲の良い部分をもう少し出せるようにすべきである。

・三鬼課長

他の市町と比べて進んでいるのは、任意の、他の市町が補助していない予防接種を数種類無料で受けられるのがメリットだが、そこをもう少しPRする必要がある。

- ・委員
もっと良い部分をアピールしたほうがよい。

◆412 未就学児への支援について

- ・委員
一時預かり保育事業の補助金も少し予定より遅れているという表現になっている。

- ・三鬼課長

0歳児保育については、尾鷲乳児保育園と第二保育園の2つしかしていなかったが、需要が増えているため、矢浜保育園で0歳児保育を新たに始めた。障害児保育は、第四保育園が拠点施設だが、昭和40年代に建てられ、拠点施設と言えるほどの設備がないので、今年建てる第三保育園に専門の部屋を設ける。一時保育については、今は一月単位だが、一日単位、一週間単位で預けられる一時保育を第四保育園で実施予定である。一時預かり保育はニーズがどこまであるか未知数だが、始めれば必ずニーズがあると思うので、市がどれくらい民生事業協会に対して体制を整えてバックアップするかということも課題となる。いずれにしてもしていかなければいけない事業と位置づけている。第四保育園が隣に移転整備したら、次の30年度4月からは行う予定でいる。

- ・委員
転勤してきた人にとって、一時預かりは期待が大きい。

- ・三鬼課長

待機児童がほぼゼロの状態が続いていて、転勤で来られた方がある程度すぐに入れる状態だが、一週間だけとか五日だけ預かってほしいということには対応できていないので、体制を整えばPRしていきたい。後期に向けた提案の一番下に「幼保一体化について」とあるが、尾鷲市は今のところ、幼稚園は公立である。保育園は民生事業協会、民間がやっている。全国的に幼保一体化の動きがあるが、尾鷲市は今のところ幼稚園は幼稚園、保育園は保育園でそれぞれの未就学児の支援をしようという形である。

- ・委員
尾鷲幼稚園は2年保育で、三木幼稚園は3年保育である。尾鷲幼稚園は3年になるか。

- ・佐野課長

要望としてはあるが、3年保育のためには、施設面・組織面を整える必要があることと、幼保一体ということでは、市と民生事業協会の組織間のすり合わせ、合意も含めて詰めをしなければならない。もう一つは、子どもが増えないので、どこまで必要かというところがあり、運営のベースになる園児数の部分でも5年、10年先を考えていかなければならない。そういうことも含め、体制として3年保育がどうなのか考えていく必要がある。すぐにという話ではないが、今の段階では大きな課題であると考えている。

- ・委員
尾鷲の方であえて三木幼稚園へ行っている人がいる。人数的な把握ができていないが、尾鷲幼稚園の子どもが少なくなってきたいて、もう1学年10人ぐらいだと聞く。

- ・佐野課長

今年は入園数が多かったので、2学年足して35人である。

◆413 学校教育の充実について

- ・委員
評価を見ると、事務費とか整備事業費とか施設とかが低い。

・佐野課長

財政面を含め、なかなか思うように動いていないところを、特に達成度は、重要度が高い割に達成ができていないということがあり、Cとつけている。

・委員

事務局費とは何か。

・佐野課長

施設費は大きい修繕や整備も入るが、一般事務局費は、維持管理していく部分である。細かい話になると就学支援の奨学金も入るし、どちらかという運営で必要なものになっている。どうしても、給食などの消耗品などは厳しい中でやっているの、事務方からすると厳しめにCとつけたと思う。やることはやっているが、目指すところまでなかなか手がかけられない。特に達成度が小・中学校の施設の部分でCになっているところについては、一通り非木造の建物の耐震は終わったが、木造はまだ2棟、三木浦と三木里の小学校が統廃合の話も含めやっている中で、現実として施設整備の部分でまだ手がつけられていない部分があるのでCという判断になっている。全部終わってればもう少し違う尺度に見えたのではないかと。

・委員

三木里と三木浦では難しい。

・佐野課長

子どもの目線で子どものことを考えて、地域を考えたときに、三木浦、三木里の地域に1つ学校がほしいという話になり、準備会の中でかなり活発にお話しいただき、その上で再編計画があるが、元々19年にたてられた段階では、29年度までに1校にするという校区設定であったのを、可能性としてこういうこともできるかもしれないと、間口だけは2校分に設定し直した。そういうことで、話としては少しずつ前に進んでいる。

・委員

保護者としては、子どもはたくさんで遊ばせたい。

・委員

クラブ活動をメインで考える親が出てきた。三木浦や三木里からもこちらへ来ている。

・委員

この計画の中で小学校給食事業、中学校給食事業とあり、いかにそれを実施していくのかというところまでまだいっていないが、検討としている以上、どうなのか。

・佐野課長

検討はしていかなければいけないし、新しいセンターを建てられれば一番良いが、既存の施設を使っていることではないかとか、頭をひねらなければならぬ話だと思う。10年前と比べ、給食の厳しさはアレルギーを含めいろいろ出てきているが、生徒、児童数は減ってきているので、相殺で上手く転がせないか考えていきたいと思っているし、既存の中で無理が出てくるのであれば、例えば、有事のときのことを考えたセンターも一つの手段だろう。今まで学校独自の給食室があったが、その辺りとの兼ね合いの中で考えなければいけない。

・委員

自分が会長のときにアンケートを取った。結果は、給食をつかってほしいという意見が多かったが、中学生のときぐらいは親の弁当を食べたいという意見もあった。市役所が一生懸命動いて、PTAと行政の話し合いの場も作り、意見を出し合った。行政も給食室を建てると莫大な金額だということで、業者を探して弁当制を考えたが、受けてくれる業者がなかった。残飯をどうするか、給食費をどうするか、アトピーのある子はどうするかと、いろいろな問題が出てきてボツになった。今回もこの話が出たときに、そんな話があるのならなぜ宮之上小学校や尾鷲小を建てるときに考えなかったのか。海山は給食センターがあってそれでよいが。長島のほうは各学区にあると思う。

・佐野課長

はっきりしていないが、長島はまたセンターを作る方向で動く。紀北町は長島区のセンターと海山区のセンターという形を取るのではないかと思う。今回のアンケートは前とよく似ていて、やはり保護者は9割近くが作ってほしいと言うが、10%は同じように3年間自分の弁当を食べさせたいとか、結構強い意見としてある。子どもたちも弁当のほうがいいという子どもが多い。好きなものが食べられるとか、いろいろアレルギーを持っていて、給食では皆と同じものが食べられなかったが、弁当というくくりで同じになったのにまた同じ状況になるとか、そういう少数意見も踏まえた上で、先ほど配った食という計画の中でもやはり大きなファクターとして給食があるので、そこも考えていかなければならないと思う。基本計画の中でも書きぶりは大きくはできないが、方向としては考えていかなければいけないと今回の課題として感じている。

・委員

尾鷲市いじめ防止基本方針について、昔とは違う今のいじめに対する対処を、中に入れ込むことは可能か。

・佐野課長

ことさらにいじめという言葉を出すか、学校の中での学習など環境的な話に持っていくか。いじめについてはまず国の法律が出て、大きな問題がいろいろあった中で県が作り、さらに市が作り、という流れの中で、非行問題などいろいろやっている中で、今回連絡協議会へ行った。体制としては何かあったときにはすぐに教育委員会で調査機関を立ち上げ、専門家にも集まっていたりするような組織的なことはおさえた上で対処して、総合教育会議といって教育委員会が独立はしているが、そこに首長の意識も入り込めるような調査ができる体制も別立てでいけるように、今回のいじめ対策の中では組織的なことも含めて対処してやっていく。緊急に何か考えなければならない事象は尾鷲市の中にはないが、体制の準備はしている。連携する中で未然に防ぐという方向での活動を尾鷲市はやっていく。そのためにも一カ所ではなく、みんなで連携して広い視野でおさえていくということが良い。

・三鬼課長

いじめ対策にも力を入れていく体制作りができ、それによって心も身体も健全育成に繋がって、学校教育の充実に繋げる一つの方針とまでは行かないが、そういうことで位置づけたらどうかというご提案である。

・森下係長

その辺についても、今日の意見を検討し、次回の素案を出させていただきます。

・佐野課長

元々総合計画は「おわせ人づくり」というところがあり、そういう意味では子どもを育て、未来の尾鷲人をつくっていくことが、大きなファクターだと思う。

・委員

尾鷲市内はまだ学童があるが、例えば輪内地区にもう一つ子どもたちの居場所、学童的なものがあればいいと思う。家に帰って、おじいちゃん、おばあちゃんや地域の人はいらると思うが、古江だったか、小学校1年生の男の子が一人しかなくて、帰ってから遊びに行くところがないというのがあったので、地域の子が交流ができる場所があったら良いと思う。

・委員

コミュニティセンターを子どもの居場所にといいことも考えられるのではないか。

・委員

あとは交通手段だと思う。

・三鬼課長

今年、まちづくり座談会をした中でもそこがポイントで出て、教育委員会、生涯学習、コミュニティセンター管轄で市民サービス課も含めて、今検討している。九鬼から梶賀までの児童を持つ保護者に、どういうサービスがあったら良いか、実際にどういうサービスなら利用するか、利用料金はどれくらい

までなら良いかというアンケート調査を学校長に依頼してきたので、二週間後くらいに回収し、結果をまとめて、具体的に居場所づくりとして何がふさわしいのか進めていきたいと考えている。

◆421 生涯教育の推進について

・委員

放課後子ども教室について、学校に行くということは、普通に働いている人は行けない。スタッフとして、働くのを卒業した人が行くしかない。

・世古係長

回数的にも頻繁な実施は難しいので、可能であれば地域の方に関わっていただけると、有り難いし、尾鷲地区でやっているような、講師が作り上げた講座を展開するというものばかりだと、逆に展開が難しくなるので、もう少し遊びがあったり、時間の中で何かを達成しなければならないという話ではなく、居場所づくりとしてそういう場所を作っていきたいという方向で考えている。

・委員

うちの市民会議も、いつでも旧尾鷲ばかりで、輪内方面は全然、今まで目を向けていなかったもので、今年は輪内方面へどんどん足を運ぼうかという話をした。

・世古係長

少人数でもニーズに応えられる何かをやりたいと考えている。

・委員

昔の遊びを教えるとか小さいことからやっていけるように、老人を使ってほしい。

・佐野課長

先般も連合会で昭和の遊びを2つの学校でしていただき、2～3年生くらいの子が来て楽しんでいった。結構、一回目としては良かったと、見せてもらって思った。

・委員

昔の遊びは流行っているようで、こどもの城でも昔の遊びがメインで、いろいろな地域が集まってイベントを開いたりする。

・三鬼課長

そうやって丁寧にやっていくことによって、定住に繋がるような、そういうところに魅力を感じて移住してくれる人のためにもやはり輪内地区でも一つ一つ積み重ねていって、コミュニティの良さをPRできるようにしたい。

・世古係長

アンケート結果などに基づいて事業も展開の仕方を考えなければいけないと思うし、フルタイムで事業展開というのは需要は少ないかもしれないし、またそれぞれの習い事や趣味、遊びたい気持ちなどにマッチする、より良い形で展開していけたらと考えている。

◆422 生涯スポーツの推進について

・委員

30、31日に三木里の海水浴場にて三重県選手権、国体選手選考も兼ねた大会をやる。私達も元々オープンウォーターというものを知らなかったが、国体の種目になるということで、やることになった。国体誘致だけに終わらず、競技のオープンウォーターと、一般的なオープン型大会がある。去年はじめて民間業者がやって、150～200人集まって、親子の大会や、距離の短い大会をやって、交流もできたので、将来的には観光、尾鷲の三木里地域の活性化に繋がればと考えてやっている。

・委員

大きい大会を組むことによって、いろいろな人が集まってくる。それによって宣伝もされるので、経済効果はすごい。中学生のバレーとバスケの大会のときに民宿、ビジネスホテルを全部おさえるが、結構な経済効果が上がるし、宣伝にもなると思う。

・委員

熊野市と紀北町がものすごく力を入れて頑張っている。尾鷲市は今まで企業を頼りにしていたが、紀北町と熊野市は企業という企業がなく、自分たちで取り組んでいる。その中で生まれたのが熊野市の野球場である。

佐野課長

観光スポーツという形である。役所の組織もいわゆる商工観光ではなく、観光とスポーツを一緒にして組織にしている。

・委員

福祉でやっているウォーキングは高齢者も結構来る。高齢者になってくるとなかなかスポーツできないが、ウォーキングも一つのスポーツだと思う。スポーツ振興の中に入るのではないかな。

・世古係長

ハードの部分はなかなか厳しいが、スポーツ振興をできるところから、特にソフトとの部分、教育スポーツの強化、レクリエーション、ウォーキングなども含めて、生涯スポーツの振興と位置づけ、昨年度スポーツ推進計画をとりまとめた。具体的に何ができるかはなかなか難しいが、スポーツに携わっている人との連携や話し合いをまず進めていかないと、制度やお金だけがついても動くことが難しいので、そういったところをやっていこうということで、今年になってスポーツ推進委員との会合を新たに設け、光が丘スポーツクラブも名称を改め、尾鷲スポーツクラブにし、競技というより楽レクリエーション的にスポーツに携わっている方たちの窓口も改めてリニューアルし、体育協会の補助金についても、スポーツ大会の誘致を体育協会を通じてやりたいということで昨年度よりも上乘せした。そういった、できるところから取組を進めていく。どうしても弱い部分はあるが、強みになるところを進めていくとか、大きな利益はなくても小さな利益でもあるところを進めて大事にしていこうという取組を、特にスポーツは続けていきたいということで今年は動き出している。

・委員

小・中学生対象の、体育協会が関係しないスポーツにも広げたい。

・世古係長

スポーツ少年団の補助金も少しある。尾鷲スポーツクラブに上手く入っていただくと、確か中学生でも入れるので、関わりを上手く持っていただきたい。

・委員

バスケの大会を作って、今年で第14回である。実行委員長は自分がやっているが、保護者と学校で作って学校の先生がいろいろな学校から招待する。県外とかいろいろな所から招待して大会を開く。今までだったら尾鷲から他所に行ってそういう大会に出たが、そうではなく尾鷲にも呼ぼうかということで、行くばかりではなく、尾鷲に来ることによって尾鷲の町を知ってもらうこともできる。

・世古係長

そういう広い意味で、そういったところも含めて、スポーツ推進計画の中には振興という意味が入っている。あとはそれを具体的にどうしていくかというところは詰めていかなければならない。

・委員

企業が機嫌良く協賛してくれるのでまだいいが、本当に苦しい。

・委員

企業が少なくなったのは確かに厳しい。文化協会だが、本当に岡田財団がなかったらやれないというような感じである。理想やスローガンやいろいろなものを皆さん持っているが、実際やろうとなると相当

締めてかからないとできないのが現状だと思う。ちょうど尾鷲が知名度を上げてきたので、外から来ていただけるように知恵を絞って、どんどん推進していただきたいと思う。

◆423 国際交流の推進について

・委員

最近、プリンス・ルパートと連絡をしているようなことが載っているが。

・岩本補佐

サミットがあったので、カナダのホームステイ受け入れ先の家族が尾鷲にみえて、そこで国際交流協会の方たちと1日交流をさせていただいた。

・委員

プリンス・ルパートへ行ったメンバーが集まって交流会はしていないのか。

・岩本補佐

継続的な形ではやっていない。国際交流協会を中心にやっていただいているが、今年度の事業として、各国の料理教室であったり、プリンス・ルパートへの手紙の作成講座であったり、小・中学校のALTのウェルカムパーティとか、クリスマス、ハロウィンに外国の方を招いて交流したりというような取組をやっている。

・世古係長

いきいき尾鷲っ子で矢浜校とかだと、英語で遊ぼうという講座を持って頂いたりする。

・三鬼課長

確かに姉妹都市との関係をどういう形でつなげていくかというのも課題だが、以前のように1年おきに行き来していた時代を思うと、それなりにいろいろなつながりがあった。

・委員

中国大連市の金州区とはなぜ協定を結んだのか。

・佐野課長

基本的には産業交流がメインである。

・三鬼課長

尾鷲物産に来ている方たちはそこから来ていると思う。産業界の方も連れて行って、今も尾鷲物産は繋がっている。こちらの産品を向こうへ輸出するという一つの目標に行った。特に実を結んでいるのは、尾鷲物産は養殖業もアメリカで寿司展開をしている。今後は、どういう形で推進していくか。

・委員

3番は外部委託への可能性もあるとなっているが。

・岩本補佐

現在の国際交流は枠が狭いので、産業などに事業を持っていかなければいけないと思っている。

・三鬼課長

サミットもあったことによって、今までは目を向けなかった人たちが商売先として、観光で来ていただくことも含めて、国際交流を考えていかなければならない。尾鷲の中に外国人が非常に興味を持って魅力を感じるスポットや物があったりすると、来てくれる可能性もある。

・委員

この間イギリスの人が自転車で旅していた。日本の感覚と外国の人の感覚は全然違うと思う。

・委員

ホテルよりも民泊の、日本の暮らしというか、浴衣を着せたりしたら喜んで。外国の人が尾鷲にたくさん来てくれるようにいろいろと知恵を出すとよい。

◆全体について

・委員

子育て支援のところで、お母さんに対するケアをもっと入れてもらったらいいのではないかと。尾鷲はまだ誰かが近くにいるというのがあると思うが、例えば転勤によって来られた方とか、誰に相談したらよいか分からない。ちょっとでも話ができる場所があればよい。

・三鬼課長

一つの課題として、子育てに関わってくれる人は、例えばちびっ子広場のように気軽に行き育児相談できる場所もあるが、それを知らない人も正直いる。例えば保健師がこんにちは赤ちゃん訪問で全ての赤ちゃん宅を訪問しているが、それも1回きりで、よほど心配なところだけ複数回行くが、ここへ行ったらこういう情報を取れる、ここへ行ったら相談ができるとか、福祉保健課は窓口を広げて案内をするが、それも若干限界がある。例えば名張市がネウボラをやり、いろいろな地区で相談窓口を持っていて、そこへ行けば全ての情報があるというところが市内に沢山ある。そういうのに近づけるためにもコーディネーター役の人を育てていくのが課題であり、母親のケアは、積極的に自分から情報を取りに行く人もいれば、そうでない人もいるので、そういう方たちも相談しやすい、そこへ行けば全ての情報が得られるコーディネーター役のところをやっていかなければならないと思う。目標に掲げるにはいいことだと思う。

・委員

社会福祉会館3階の講座室の横に赤ちゃんがいるが、あれはどういうシステムなのか。

・委員

「おひさま」というサークル活動の方たちが使っている。

三鬼課長

基本的には児童ルームであり、サークルの方も利用するし、時には発達支援教室もやっている。市民全体が使えるところになっている。

・委員

結構集まっていて、よそのお子さんを別のお母さんが構ったりして、いいことだと思う。

・委員

そこへ行けるお母さんはまだいいが、そこへ行けないお母さんは結局家にこもってしまうので、そういう人たちの支援も必要である。

以上